

ソファと  
オットン





「やあ！ぼくはソファのソーファー！」  
「ぼくはオットマンのオットン！」  
すわってくれるひとを やさしくささえるのが ボクたちのしごとなんだ。



このふたりは ぼくたちのかぞくだよ。  
ふたりは いつも なかよしこよし。  
ぼくたちのことも ずっとだいじにしてくれているんだ。



ねむれないよるは おそくまで いっしょにえいがをみたり。  
ほかほか あたたかいひには いっしょにうたたねしちったり。





あわてて コーヒーをこぼしちゃったこともあったね。  
ぼくのたんじょうびには みんなでいっしょに おいわいたんだ。  
ソファとオットンは なつかしそうに はなします。




だけどね、さいきん ふたりとも すっごくいそがしいみたい。  
ぼくたちのこと わすれちゃったのかな・・・  
むかしは もっといっしょに じかんをすごしたのにな・・・



あるひのよる、ソファーとオットンは なかなか ねむれずにいました。  
「ぼくたちのいばしょは、もうこのいえには ないのかな」  
ソファーは しくしく なきはじめました。  
「げんきをだして、ソファー」オットンが やさしいこえで なぐさめます。

「ぼくたちを、ひつようとしてくれる いばしょをさがしにいこう」  
ソーファーは ちいさなこえで つぶやきました。  
オットンは しばらくかんがえてから 「うん」とへんじをしました。  
ふたりへの かんしゃのきもちを てがみにしたためて、  
ソーファーとオットンは いえを とびだしました。



ふ、た、りへ  
あたらしい いばしょを  
さがします。  
いままで ありがとう。  
ソーファー  
オットン へ







よるのもりは とてもしずかです。  
そらには まんまるおつきさまが かがやいています。  
オットンは はじめての そとのせかいに こころがウキウキしていました。  
「ぼく、なんだか こわくなってきたよ・・・」  
ソーファーは もういえにかえりたい きもちになっていました。  
「だいじょうぶ！ ぼくがついているよ」  
オットンはソーファーを やさしくはげまします。

よるのもりを まっすぐ すすんでいくと、  
とおくのほうから「たすけてー！」というこえが きこえてきました。  
なにか キラキラとかがやくものが ソファーとオットンめがけて  
おちてきます。

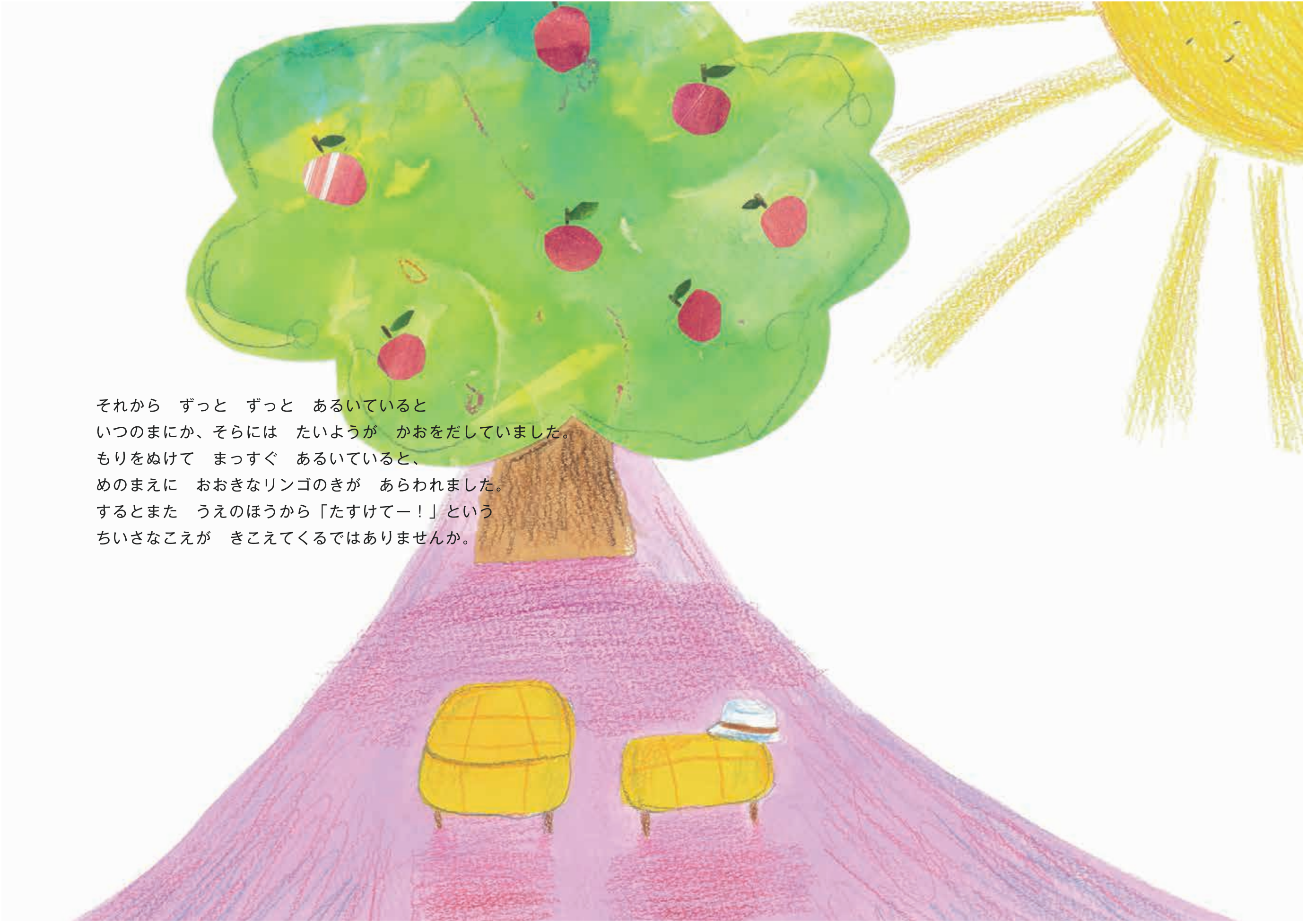




「ワー！だれかー！たすけてー！」  
シューツ シューツと おおきな おとをたてて  
2つのキラキラは どんどん ちかづいてきます。  
『たすけなきゃ！』  
ソファーとオットンは いっしょうけんめいに はしりました。

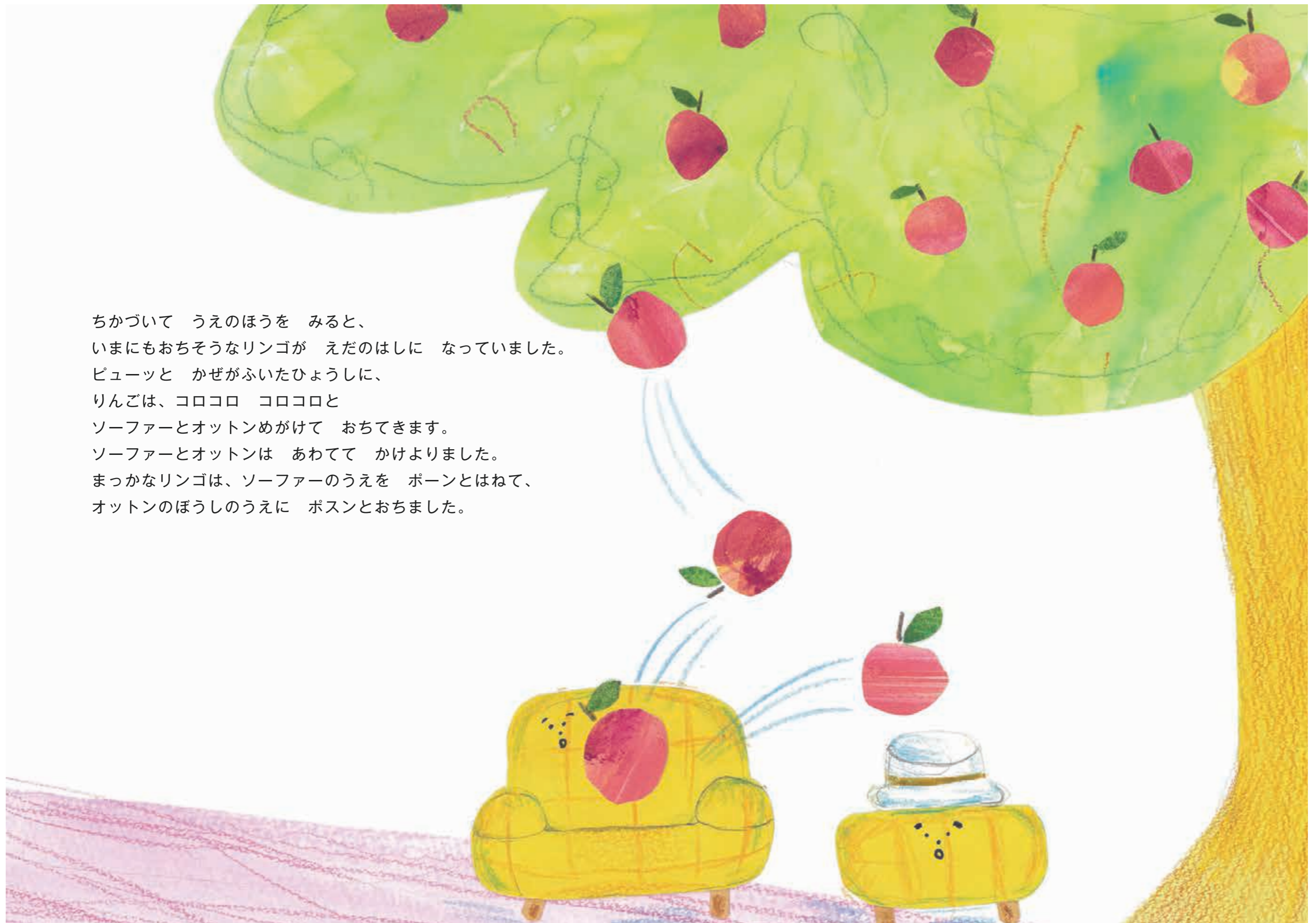
An illustration of two yellow armchairs with simple faces. The chair on the left is larger and has a star on its seat. The chair on the right is smaller, has a white hat on its back, and also has a star on its seat. The background is dark blue with white stars and falling petals. The text is positioned in the upper right area of the image.

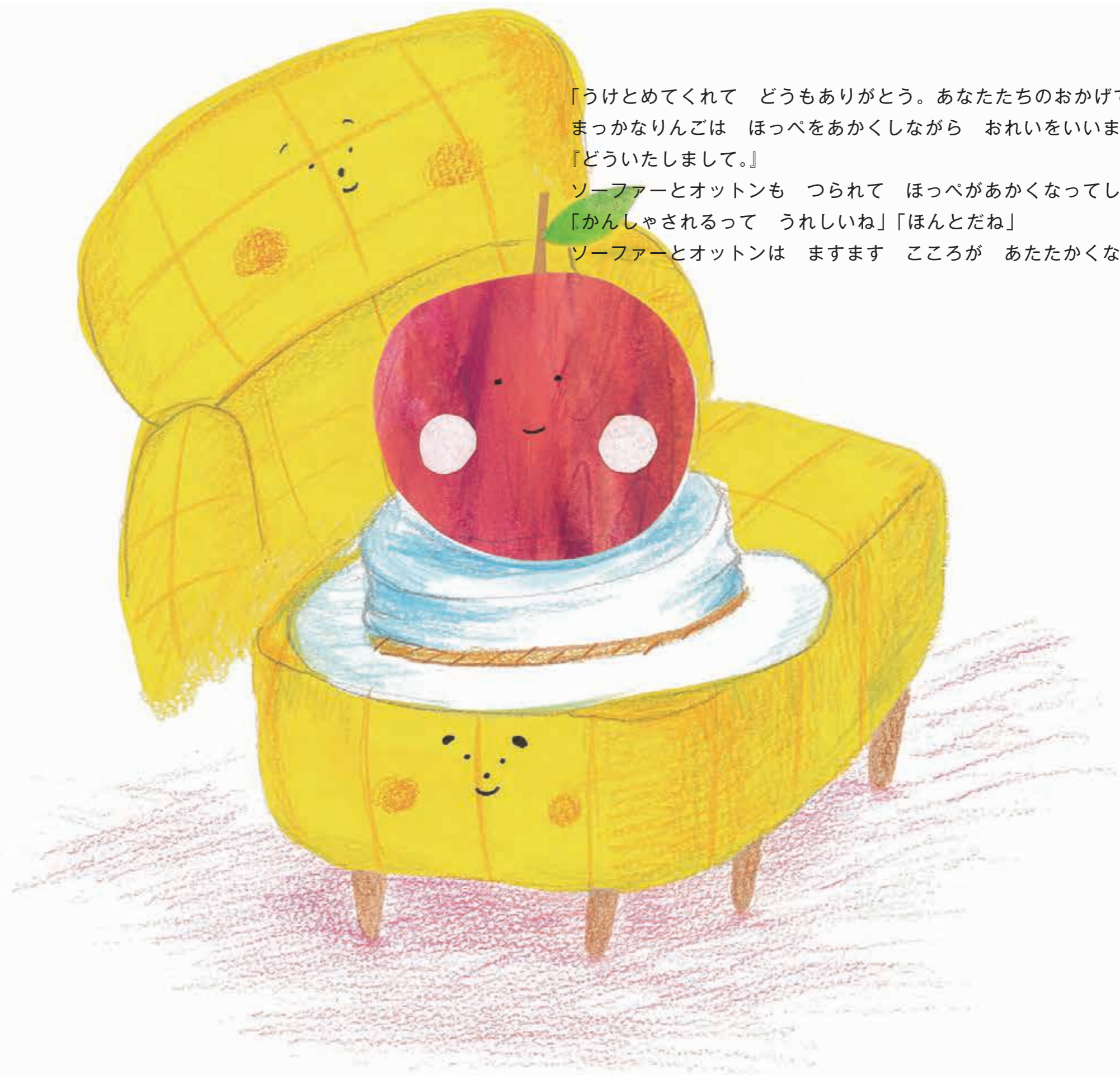
ギリギリのところだ なんとか まにあって、  
おちてきたキラキラを それぞれの クッションのうえで うけとめました。  
「ボクたちは ながれぼし。キミたちのおかげで たすかったよ。  
ほんとうにありがとう！」  
おれいをいって、ながれぼしたちは  
シューッと そらに かえっていきました。  
「キラキラ かがやいていて きれいだったね！」  
「うん！ すごくきれいだったね」  
ソファとオットンは なんだか  
こころが あたたかくなりました。

A colorful illustration of a scene. In the upper left, a large, rounded green tree with a brown trunk is filled with several red apples. To the right, a bright yellow sun with a smiling face and long, thin rays is shining. Below the tree, a wide, pinkish-purple path leads towards the bottom of the frame. On the path, there are two yellow, rounded chairs with small legs. The second chair has a light blue hat with a brown band resting on it. The overall style is simple and childlike, using thick lines and flat colors.

それから ずっと ずっと あるいていると  
いつのまにか、そらには たいようが かおをだしていました。  
もりをぬけて まっすぐ あるいていると、  
めのまえに おおきなリンゴのきが あらわれました。  
するとまた うえのほうから「たすけてー！」という  
ちいさなこえが きこえてくるではありませんか。

ちかづいて うえのほうをみると、  
いまにもおちそうなリンゴが えだのはしに なっていました。  
ピューッと かぜがふいたひょうしに、  
りんごは、コロコロ コロコロと  
ソファーとオットンめがけて おちてきます。  
ソファーとオットンは あわてて かけよりました。  
まっかなリンゴは、ソファーのうえを ポーンとはねて、  
オットンのぼうしのうえに ポスンとおちました。





「うけとめてくれて どうもありがとう。あなたたちのおかげで たすかったわ」  
まっかなりんごは ほっぺをあかくしながら おれいをいいました。

『どういたしまして。』

ソファーとオットンも つられて ほっぺがあかくなってしまいました。

「かんしゃされるって うれしいね」「ほんとだね」

ソファーとオットンは ますます こころが あたたかくなりました。

さらにさらに ソーファーとオットンは みちを すすみませう。  
すると、いままでに みたことがないような  
いろとりどりの おはなばたけに たどりつきました。  
まんなかには あかいやねの おうちがあります。





「わーきれいだねー！」

おはながだいすきなオットンはとてもウキウキしました。

「ふたりにも みせてあげたいな・・・」

ソファーは ふたりのことをおもいだして  
なんだか せつないきもちに なりました。

しばらく さんぼをしていると、

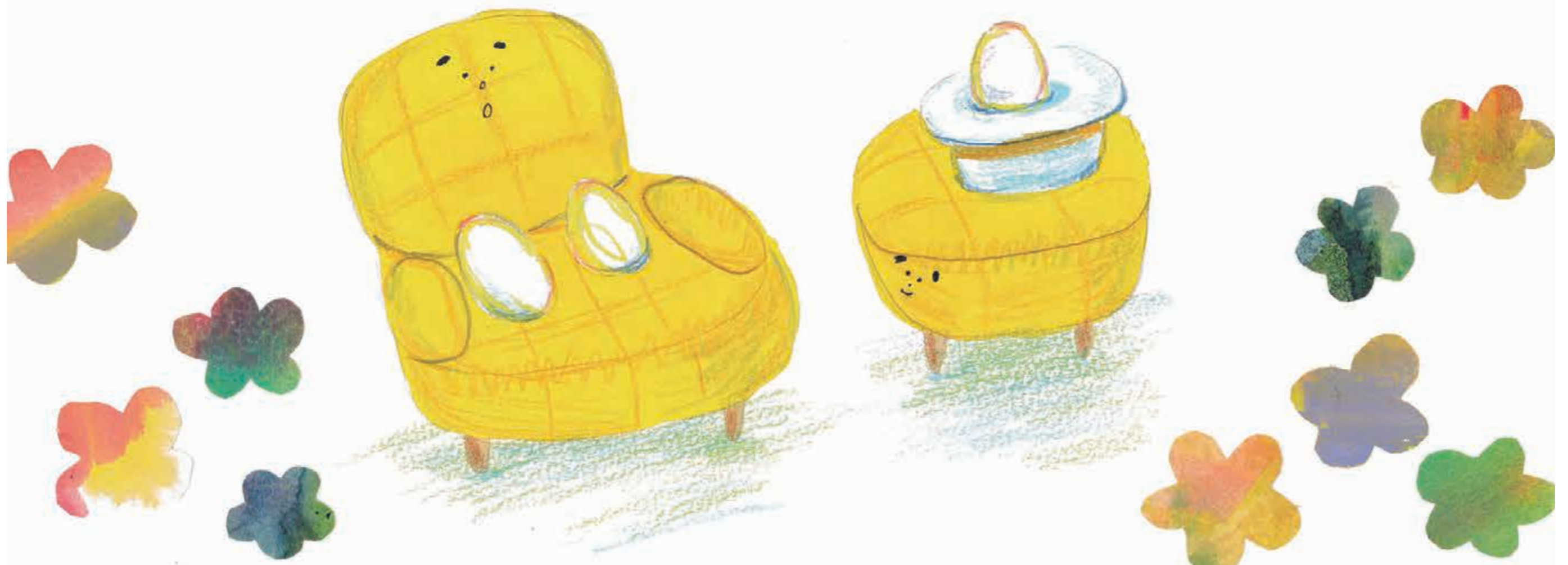
またまた「たすけてー！」というこえが

うへのほうから きこえてきました。





コロコロ コロコロ コロコロと そらからおちてくる たまごを  
ソファーとオットンは またまた みごとに うけとめました。  
「なんとか まにあって よかったね。」「ほんとに よかったね。」





すると 今のしんどうに ビックリしたのか、  
たまごのなかから ピヨピヨ ピヨピヨ ピヨピヨと  
とりのこどもたちが とびだしてきました。  
「たすけてくれてありがとう！ピヨピヨ」  
「うけとめてくれてありがとう！ピヨピヨ」  
「とっても、とってもありがとう！ピヨピヨ」と  
3きょうだいがおれいを いいました。  
おやどりも とんできて  
「あなたたちのおかげで たすかりました。ほんとうに ありがとう」と  
はねを ばたばたさせて よろこびました。

とりのかぞくを みていた ソーファーとオットンは  
ふたりのことを おもいだして むねが キューっと いたくなりました。  
「やっぱり おうちに かえりたいよ」と ソーファー。  
「うん、みんなで いっしょに くらしたいよ」と オットン。  
ソーファーとオットンは かおをみあわせて うなずきます。  
『おうちに かえろう!』  
まわれみぎをして、ソーファーとオットンは  
ぜんそくりょくで はしりだしました。



はやく ふたりに あいたいきもちで  
いっしょうけんめいに はしっていると、  
あっというまに もりのいりぐちに つきました。  
すると とおくのほうから 「ソーファー！」「オットーン！」  
というこえが きこえてくるではありませんか。



いそいで こえのするほうへ はしっていくと、  
そこには ふたりが たっていました。  
「ソファー、オットン、さみしいおもいを させてごめんね」  
「おうちに かえって またいっしょにごろごろしたり、えいがをみたりしよう」  
ふたりは めになみだを うかべながら つたえました。



「ぼくたちこそ、とつぜん とびだしちゃって ごめんね。  
ずっとさみしかったんだ」

「また いっしょに いてもいい？」

ソファとオットンは

ぼろぼろ なみだをこぼしながら

ふたりにきもちを つたえました。

「もちろんだよ」

ふたりは ぼろぼろ なみだをこぼしながら、

ちからいっぱい ソファとオットンを だきしめました。





おうちに かえってから、ソファとオットンは  
そとのせかいで みたものを ふたりにはなしました。  
ひさしぶりの かぞくだんらの じかんです。  
「やっぱり ふたりにすわってもらうのが、いちばん おちつくね。」  
ソファは にこにこえがおで いいました。  
「うん！」オットンも えがおで こたえます。

これから、ずーっとずっと よろしくね。



# NOYES

## S O F A 1 0 0 %

2017年2月25日発行

著者 新海 美穂

発行者 株式会社 NOYES

第5回 NOYES 絵本コンクール ZIP 賞作品